1 はじめに

早朝、市場の稼働時間の活気溢れる空気とは裏腹に、 昼間は眠ったような空気に包まれる。これが卸売市場 本来の姿であるが、ここはみなとみらい21地区を南 に臨むウォーターフロントという好立地。また、新し く建設される臨港幹線道路により、車でのアクセスは 益々便利になる。周辺のタワーマンションには多くの 世帯が生活している。この地に新たなコミュニティー を創り出せば、地域住民の活動の場となる。また、休 日にもなれば遠方からの来訪客も見込める。

この市場の持つポテンシャルは以下の2つである。

①新鮮な食材

毎朝日本全国、世界各地から、たくさんの種類の 生鮮食料品を大量に集める市場機能。

②駐車場

毎朝、各地から集まる卸売り業者や小売り業者のため の大型駐車場。しかし、市場の稼働時間を過ぎれば利 用者はほとんどいなくなってしまう。

横浜都心部のウォーターフロントという好立地にありながら、一日のごく一部の時間しか稼働していないこの広大な卸売市場には、大きな潜在力が眠っているのではないか。この潜在力と市場のポテンシャルを利用し、新たな卸売市場のあり方のみならず、ダイナミックな都市空間を提案できるのではないかと考えた。

2 敷地概要



横浜市中央卸売市場本場(神奈川県横浜市神奈川区 山内町1番地)ここは横浜駅から徒歩12分。みなと みらい21地区を南に臨むウォーターフロントという 好立地に建つ卸売市場であり、水産物・青果物の仕入れ、卸売りを行っている。

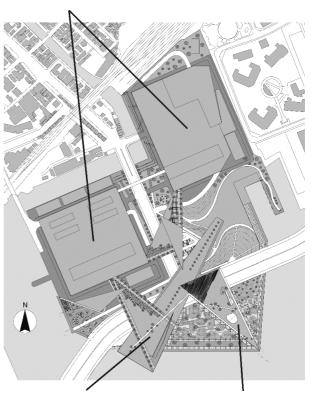
周辺には30階を超えるタワーマンションが立ち並 ボヨコハマポートサイド地区、コットンハーバー地区、 みなとみらい21地区の高層マンション群がある。

敷地を東西に横断している道路は、コットンハーバー地区とみなとみらい21地区を結ぶ臨港幹線道路であり、現在建設中である。

3 提案内容

市場のポテンシャルを生かした公園を提案する。市場の仕入れ・卸売り機能を担う建物は既存のまま残し、屋上駐車場を市場の稼働時間以外(昼間)には来訪者のために開放する。その他の市場のバックヤード施設を整備しながら、公園の計画を進める。公園の中には新たに、新鮮な食材を貯蔵・販売することができる商業施設、バーベキュー施設、イベント施設を配置する。

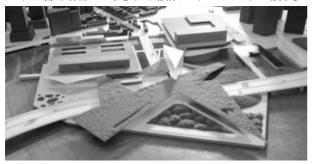
既存建物 (屋上は駐車場)



イベントホール

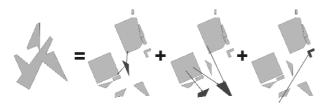
バーベキューガーデン

敷地全体を一つの公園と考え、市場で働く人のみならず、地域住民の憩いの場となるような都市空間を創出する。まず、道路により分断された敷地を新たに挿入する都市機能に対応する複数の〈プレート〉で覆う。



〈プレート〉で覆われた敷地

この〈プレート〉の形成は、敷地内の動線計画による。



- ・ オフィスと市場を結ぶ動線
- ・ 駐車場とバーベキュー・イベント施設を結ぶ動線
- ・ 2つのシーバス乗り場を結ぶ動線

これらの動線が軸となり、〈プレート〉が形成される。 〈プレート〉の上面は公園化され、水辺と市場を結ぶ 魅力的な遊歩道が設けられる。これにより水辺から市 場まで歩いて移動できる都市公園が生まれる。





公園化された〈プレート〉上面の様子

〈プレート〉の下面にはその"裂け目"より陽光が差し込む、半屋外的な大空間が広がる。ここには市場から仕入れた食材を貯蔵・販売できる商業施設と、バーベキューガーデンが設けられる。人々はここで、新鮮な食材を自分の目で選び、市場の生の活気を体験することができる。

外に目を向ければ、横浜ウォーターフロントの都市 風景が広がる。眺望に誘われ、公園に囲まれたバーベ キューガーデンで人々は食と人との交歓を楽しむ。





バーベキューガーデンの様子

親水エリアと市場近くの既存ドッグを生かした2つのスペースには、シーバス乗り場を設けた。これにより、横浜ベイクォーターと大さん橋の中継地ともなり、アクセス手段の幅が広がる。

本計画を通じて、この地は夜中から午前中にかけて 市場として稼働し、昼から夜にかけてバーベキューガ ーデン・レストラン・イベントホールが稼働する。ま た、公園は24時間解放される。



プレート下からみなとみらい21地区を見る

4 おわりに

本計画により、この地が市場で働く人々のための憩いの場、周辺地域に住む人々のための公園となり、これまで「市場」という単一の機能しか持たなかったこの地が、市民のための新たな機能を持ち、24時間稼働できる地に生まれ変わることを期待する。